

〔新刊紹介〕

## 村上美登志校注『太山寺本曾我物語』

中 本 大

軍記研究を基軸に据え、和製類書や唱導資料などを精力的に考

究する著者が満を持して学界に呈した『曾我物語』の校註本であ

る。『曾我物語』諸本の中、現存最古の写本である太山寺所蔵本

をテキストとする。前著『中世文学の諸相とその時代』（一九九

六年十二月刊 和泉書院）において、太山寺本『曾我物語』に関

する著者の視点は既に示されていたものの、今回、その本文が提

供され、充実した校註が附されたのは有難い。その注釈には典拠

をはじめ、他出文献なども整備されており、巻末の参考文献一覧

と併せて有意義なものとなっている。紙幅の関係か、諸本の校異

は一部に限られているものの、巻末には人名・書名・地名索引も

附されており利用価値は高い。

思うに、太山寺本『曾我物語』との出会いは、著者の研究生活

においても大きな意義を持つものであったわけだが、今回の著書

により、それが徹底した読解・注釈という基礎的な成果を踏まえ

て成し遂げられたことがよく理解される。著者は今回の校註を契

機に、更に興味深い『曾我物語』の世界を我々に呈してくれるも

のと思われる。

（和泉書院 和泉古典叢書十 三五二頁

一九九九年三月 本体価格三、〇〇〇円）

（なかもと・だい 本学助教授）